

## 「日本生命ネイチャー・ファイナンス・アプローチ」の策定について

日本生命保険相互会社（社長：朝日智司、以下「当社」）は、企業のさまざまな事業や取り組みを自然の回復の観点で定量的に測定・評価する手法をまとめた「日本生命ネイチャー・ファイナンス・アプローチ（以下「当アプローチ」）」を策定しましたのでお知らせします。

当社は、サステナビリティ経営の重点領域の一つである「地球環境」において、“豊かな地球を未来につなぐ”ことを重要課題と位置付けています。そうした中、自然については、行動の緊急性が極めて高い状況にありながら、その複雑性から社会全体での取り組みが気候変動に比べて思うようには進んでおらず、事業活動領域・資産運用領域の両面で取り組みを進めていく必要があると考えています。

こうした認識のもと、責任ある機関投資家として、自然の回復に向けた取り組みを一層促進していくための評価尺度が重要であると考え、今般、科学的見地に基づく実用的かつシンプルな指標を整理しました。具体的には、自然の回復に影響の大きい陸域植物（森林等）を対象に、地球環境において人類が安心して暮らせる状態の限界を示す「プラネタリーバウンダリー<sup>※1</sup>」のうち、生物圏の臨界点を示すものとして、

- ① 生態系への影響の観点から、生物が生存・成長に利用するエネルギーである「NPP<sup>※2</sup>」、およびその人類による利用量である「HANPP<sup>※3</sup>」を、
- ② 生物種への影響の観点から、「対象生物種の個体数」を指標としています。

加えて、その他の環境・社会面で重大な負の影響を及ぼさないことを確認するDNSH<sup>※4</sup>原則の考え方も採用しています。

---

※1 ストックホルム・レジリエンス・センター(Stockholm Resilience Centre) が2009年に提唱。「気候変動」「生物圏の一体性」「土地利用の変化」「淡水利用の変化」等、計9つのバウンダリーがある

※2 Net Primary Production

※3 Human Appropriation of Net Primary Production

※4 Do No Significant Harm

## 日本生命ネイチャー・ファイナンスの考え方

自然回復 の方向性	対象事業	プラネタリーバウンダリーの 生物圏の臨界点を示す2指標		DNSH
		生態系	生物種	
HANPP 低減	森林保全・再生以外 の幅広い事業 (農業・食品・鉱業・不動産 等森林伐採を伴う行動を 回避・緩和する事業)	減少が 回避された NPP量	対象外	その他 環境・社会面の 顕著な悪影響を 及ぼさない
NPP 増加	森林保全・再生事業 (公的または慈善活動に留 まらず、収益性ある森林 事業を含む)	NPPの 増加量	対象生物種の 個体数増 ※絶滅危惧種 に焦点	

自然の回復に向けた取り組みを促進していくためには、企業取組の方向性やその影響度を可視化する手法を提供していくことが有用であると考え、当アプローチの策定に至りました。当アプローチについては、国際的な議論の動向も踏まえつつ、今後必要に応じてアップデートしてまいります。

なお、当アプローチの策定にあたっては、サステナビリティ専門コンサルティング企業であるイー・アール・エム日本株式会社より、グローバルな専門知識を活用したコンサルティングを基に、国際的なガイドライン等との整合等の観点から広く支援いただいています。

※当アプローチの内容は以下、当社ホームページにて公開しております。

- ・日本生命ネイチャー・ファイナンス・アプローチ

[https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/shisan\\_unyou/esg/pdf/2025-nature-finance-approach.pdf](https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/shisan_unyou/esg/pdf/2025-nature-finance-approach.pdf)

- ・日本生命ネイチャー・ファイナンス・アプローチ<概要説明資料>

[https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/shisan\\_unyou/esg/pdf/2025-nature-finance-approach-overview.pdf](https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/shisan_unyou/esg/pdf/2025-nature-finance-approach-overview.pdf)

<イー・アール・エム日本株式会社の概要>

1. 名称	イー・アール・エム日本株式会社
2. 主な事業内容	サステナビリティに特化したコンサルティング
3. 所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー19階
4. 代表者	野間 達哉
5. ホームページ	<a href="https://www.erm.com/ja/">https://www.erm.com/ja/</a>

以上

2025-1156G, 広報部